

要旨

テーマセッション

「フィンテックをめぐる競争と金融業界の構造変化ーアメリカの事例による考察ー」

(各報告 35 分、討論 15 分、質疑応答 30 分)

座長：前田真一郎（九州大学）

文責：神野光指郎（大阪市立大学）

フィンテックが金融業界に破壊的な変化を迫り、業界地図と既存金融機関の業務内容を抜本的に変化させるであろうことは、もはや当然視されている。しかし、金融サービスのデジタル化が、金融と非金融の境界、そして金融業界における業態の境界を超えた勢力図にどのような変革を迫るのかについて、包括的に語られることは少ない。

本セッションでは、スタートアップのフィンテック企業、ビッグテック、大手投資銀行それぞれの業務展開に焦点を当て、それらの相互作用が金融業界をどのように進化させるのか検討する。対象はアメリカに絞る。アメリカは起業大国であると同時に、GAF A の本拠地でもある。また、分権的な金融制度を持ち、これまで何度となく業際問題および金融と非金融の境界についての議論を経験してきた。そのため、デジタル化による金融構造への影響を考察する上で、アメリカの例を外すことは出来ない。

第 1 報告は、高山浩二（西南学院大学）「フィンテック企業によるデジタル・バンキングの展開と既存金融機関の対応」である。アメリカでは、フィンテック企業による銀行免許の取得が実現したことから、2020 年はフィンテック企業によるリテールを中心とするデジタル・バンキングが本格化する転換点になる可能性があるといわれている。一方で、デジタル化の圧力に直面している既存の金融機関は、フィンテック企業との提携や買収等により、新しい技術を活用しようとしている。本報告では、フィンテックのスタートアップ企業に注目し、これら企業による銀行免許取得の動きと、既存の金融機関によるデジタル化への対応を考察することで、両者の競合関係の内実を明らかにする。

第 2 報告、掛下達郎（福岡大学）「ビッグテックによる金融証券業務への侵攻」では、GAF A の金融証券業務が業界地図をどのように変化させているか明らかにする。考察する課題は、GAF A 各社が①銀行の 3 大業務（預金、貸付、決済）にそれぞれどのように進出しているか、②その他の金融業務にどのように進出しているか、③とくにモバイルバンキングにどのように進出しているか、④上記の銀行業務と金融業務において、コストが削減されているか、の 4 点である。これによって、巨大テック企業が既存金融機関の業務内容にどのような影響をあたえているかを考察する。とくに、2 つの銀行/GAF A /カード会社連合が形成されていることに注目する。

第 3 報告は、神野光指郎（大阪市立大学）「米大手投資銀行によるデジタル技術活用と業務間の垂直的連携」では、金融危機後に Goldman Sachs、Morgan Stanley、JPMorgan Chase の 3 社が、デジタル技術を使ってどのようにビジネスモデルを改革してきたについて報告

する。大手 3 社は手がける業務のすべてで異業態からの競争に直面し、個別業務の収益環境は悪化した。一方で資本を効率的に利用する必要は高まった。そこで各社は個別の業務を高度に連携させることで全体の収益性を高めようとしている。その連携関係の中で、リテール業務も不可欠な要素になった。こうした各業務間の垂直的な連携において、デジタル技術の活用が鍵になっていることを明らかにする。

以上のように、スタートアップ企業に加えて、ビッグテックと大手投資銀行それぞれのビジネスモデルを解明することは、「フィンテック革命」を金融エコシステムの進化という文脈の中で理解する一助となるであろう。